

『障がい者に関する直接的指導のタイプ』

北小学校 第3学年「国語科」指導事例

1 単元名 もうどう犬の訓練

2 単元の目標

- (1) 働く動物について関心を持ち、進んでいろいろな資料を読んで調べようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 目的に応じて、段落ごとにだいたいの言葉や文を押さえ、書かれている内容を短くまとめながら読むことができる。(読むこと)
- (3) 知りたい事柄について資料を読んで調べ、分かったことを整理し、短い文章にまとめて書くことができる。(書くこと)

3 人権教育との関連

本単元を通して、身の回りや地域社会の出来事に目を向けたり、関心を持ったりすることが増えてきた児童に、社会には盲導犬や車椅子などを必要とする人々もいることを気付かせ、相手の立場や気持ちを考えて行動することの大切さを考えさせたい。このことは、本校の人権教育で育てたい能力・態度の感受性「友達の気持ちや立場を考えてその気持ちを分かろうと努力することができる。」につながるものと考ええる。

4 本時の指導

- (1) 題 目 「もうどう犬の訓練」の感想を発表しよう。

- (2) ねらい

障がい者の暮らしや盲導犬に興味・関心を持って教材文を読み、感想を発表しようとする。
(国語への関心・意欲・態度)

- (3) 人権教育の視点

アイマスク体験を通して目の不自由な人の気持ちを共感的に考えることで、盲導犬の役割や必要性に気づかせ、障がいを持つ人々の暮らしやそれを支える犬に関心を持たせたい。そして、障がい者の立場や気持ちを思いやることの大切さに気づかせたい。(感受性)

- (4) 生かしたい児童

A児…調子に乗りすぎてふざけてしまったり、笑いをとろうとわざと違う反応をしたりすることがある。アイマスク体験を通しての感想を学習活動2で意図的に指名して発表させ、学級全体でそれを認めることで、障がいを持った人の暮らしや盲導犬に関心を持たせ、相手の立場や気持ちを考えるようにさせたい。

- (5) 展 開

※人権教育上の配慮

○生かした児童への支援

評価

具体目標	児童の活動	時間	留意点・評価と手だて	準備
・ 本時の学習のめあてを読んで、学習内容を確認することができる。	1 本時の学習のめあてを読む。 「もうどう犬の訓練」を読んで、感想を発表しよう。	3	・ 本時は、「もうどう犬の訓練」を読んで感想を書き、発表し合う学習であることを確認する。	めあてカード
・ 前時に行っ	2 アイマスク体験の様子	10	・ アイマスクの体験を想起させ、そ	ビデオ

たアイマスク体験の感想を 発表することができる。	のビデオを見て、感想を 発表する。 ・感想カードをもとに発 表する		の時の気持ちを振り返らせる。 ※ アイマスクの体験から、目の不 自由な人の立場や気持ちを共感的 に考えさせる。 ○ 生かしたい児童を意図的に最初 に指名し、学級全体でその感想の よさを認めるようにする。	感想カー ド
・目の不自由 な人の生活や 盲導犬につい て知っている ことを発表す ることができる。	3 目の不自由な人の生活 や盲導犬について知って いることを発表する。 ・点字 ・点字ブロック ・ユニバーサルデザイン ・パピーウォーカー ・杖（白杖） ・音の出る信号（音響信 号機）	1 0	・目の不自由な人に限定し、障がい の種類が混同しないように助言す る。 ※ 目の不自由な人の立場や気持ち も考えさせ、障がい者も努力した り工夫したりして、健常者と同じ ように生活していることに気づか せる。 ・予想される発表内容（事柄）に関 する写真や図を用意し、理解を深 めさせる。	資料とな る写真や 図
・教材文を読 んで感想を發 表することが できる。	5 「もうどう犬の訓練」 を読んで感想を書き、發 表する。	2 0	・感想（分かったこと・思ったこと） と、もっと知りたいことを分けて ワークシートに書かせる。 ・早く感想が書き終わった児童には、 教材文に出てくる分からない語句 の意味を調べさせる。 ・友達の感想と自分の感想を比較し ながら、最後まで友達の発表をよ く聞くようにさせる。 ・盲導犬の役割と必要性について、 押さえておく。	ワークシ ート
◇ 障がい者の暮らしや盲導犬に興味・関心を持って教材文を読み、感想を発表しようとし ていたか。（国語への関心・意欲・態度）〈ワークシート、発表の様子より〉 A 障がい者の暮らしや盲導犬に興味・関心を持って教材文を読み、進んで感想やもっと 知りたいことを発表している。 B 障がい者の暮らしや盲導犬に興味・関心を持って教材文を読み、感想を発表している。				
・次時の学習 予定を知ること ができる。	・次時の学習内容を確認 する。	2	・「盲導犬の訓練」の読み取りをし た後、本時で出された「もっと知り たいこと」を調べる学習をすること を知せ、学習の見通しを持たせる。	

6 授業についての考察

（1）よかった点

①本時の授業のねらいに関して

- ・本時のねらいにある「興味や関心をもって読む」という点を大切にし、前半に①体験したビデオ映像②感想等の話し合い③障がい者が利用している生活品等の紹介等を十分に時間

をとって触れさせて理解をさせていたところが大変よかった。これにより、題材文を読む前に、障がい者の生活や利用しているもの、盲導犬の役割と大切さ等を体感でき、児童全員が自分なりの考えや感想を書くことができた。

- ・ビデオや写真資料を使って、目の不自由な人の生活や盲導犬についての意識づけを図ってから教材文を読んだので、児童の興味・関心を一層高めると同時に深く読み取ることができた。
- ・題材文章を読み上げる前に、感想（分かったこと、思ったこと）ともっと知りたいことを考えながら聞き、そうしたところに線を引くよう指示した点がとても良かった。実際に担任が読み始めたら、どの子も熱心に線や印をつけていた。
- ・ワークシートが、感想（分かったこと、思ったこと）ともっと知りたいことを分けて書くようになっていたので、児童にも分かりやすくしっかり書くことができた。
- ・自分の感想と友達の感想を比較しながらしっかりと発表を聞き、ほとんどの児童が進んで挙手したり発表したりすることができた。
- ・事前に福祉体験をさせたことや、身の回りの様々なバリアフリー用品・設備等の写真教材を準備し提供したことにより、目の不自由な人の立場で問題点等についていろいろな意見が出されたのだと思う。十分に理解させた上で教材文に触れさせたことが、本授業のねらいを十分に達成できたことに繋がった。

②人権教育に関して

- ・アイマスク体験をして、「すごく難しかった、怖かった、転びそうで大変だった、補助の人がいると安心できた」など、目の不自由な人の立場や気持ちに共感的な感想が多く出され、児童一人一人がしっかり感想を述べていた。
- ・もっと知りたいところに、「目の見えない人は、どうやって家の中のことや犬の世話をしているのか」と書いた児童がいたが、そうした意見から、目に見えない人の立場になって、現実生活を考えての感想を抱けるようになったのは素晴らしいかった。
- ・目の見えない人や盲導犬の立場でその気持ちを心配している感想も多くあり、相手の立場に立って物事を考えたり、思いやったりできたところは大変よかった。
- ・事前に行ったアイマスク体験や目の不自由な人に関する写真等の資料により、児童の福祉への関心が高まった。

③生かしたい児童への支援に関して

- ・学習活動2の場面で、最初に意図的指名により発表させたことで、自信をもって意欲的に授業に参加し、その後も数回発表することができた。
- ・生かしたい児童が書いた感想「目の見えない人は、杖や盲導犬を使って生活していることが分かった。盲導犬は、訓練をして立派な盲導犬になり、目の見えない人も犬も喜んで一緒に暮らしていると思った。」

(2) 今後の課題

- ・あまり人権に視点を当て過ぎ、その部分をねらいにしてしまうと、本来の国語科の学習内容のねらいから外れ、道徳的な授業になってしまうので、単元のどの部分でどう関連させるかをよく考える必要がある。
- ・事前か事後に、他教科の活動と関連させられるとよりその価値を高めるのに効果的だと思うので、教科等全体を見通した関連計画を立てて実施できるとよい。
- ・活動3の留意点にある「障がい者も努力したり工夫したりして、健常者と同じように生活していることに気づかせる」の部分をもう少し児童から出させ、強調するとよかった。